Wheel Chair MiKi

車いす／かるモア

自走型:KRM-1　介助型:KRM-2

取扱説明書

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用の前に本書を必ずお読みになり、十分に理解したうえでお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。
使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

表示の意味

⚠ 危険　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

記号の意味

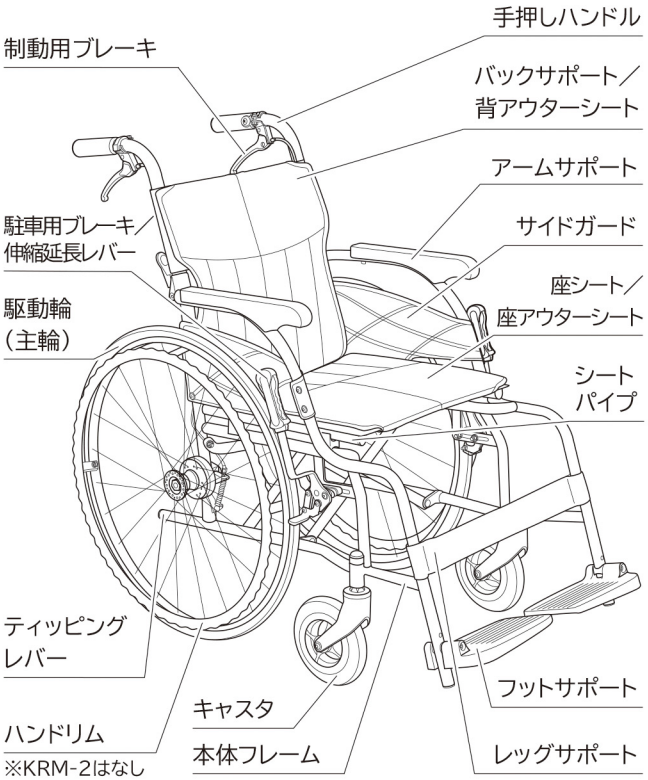
⚠　警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

❗　行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

🚫　禁止の行為であることを告げるものです。

各部のなまえ

イラストはKRM-1



仕 様

フレーム材料	アルミニウム
シート材料	ポリエステル
アームサポートタイプ	固定式
アームサポート	ポリウレタン
サイドガード	ポリエチレン+ポリ塩化ビニル
グリップ	ポリ塩化ビニル
バックサポート	スリングシート
背折れジョイント	あり　レバー式
フット・レッグサポートタイプ	固定式
フットサポート	軽量
キャスタ	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	あり　サーボブレーキ
ハンドリム ※1	プラハンドリム
駐車用ブレーキ	引き掛け式トグルブレーキ 伸縮延長レバー付き

※1　KRM-2はなし。

※2　アームパイプ内々の寸法です。（　）内は座シートの寸法です。

単位:mm

機種名	KRM-1	KRM-2
駆動輪（主輪）(inch)	22	14
キャスタ径(inch)	6	
前座高	435	
後座高	410	
シート奥行	380	
シート幅 ※2	400(360)	
バックサポート高	380	
フットサポート・シート間距離	345／365／385	
アームサポート高	220	
全高	860	
全幅	525	480
全長	970	
折りたたみ全高	645	
折りたたみ全幅	310	250
折りたたみ全長	920	835
重量(kg)	8.9	7.5

安全上のご注意

⚠ 危険

スピードを出さない。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

エスカレーター（車いす対応エスカレーターを除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）で使用しない。
転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターを利用の際は、必ず施設管理者の指示に従ってください。

乗り降りの際は、フットサポートの上に乗らない。
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

下り坂では、車いすを後ろ向きにして、ゆっくり下りる。
制動用ブレーキレバーを使い、スピードを落としてください。

自力では操作不可能な坂道や段差では、介助者の補助を伴う。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車する。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

自動車の座席として使用しない。
本製品は、車いすに座ったまま自動車等に乗車することを前提に設計されたものではありません。
車いす移動車の座席として使用した場合、車載時の負荷により、車いすが破損する恐れがあります。

駐車用ブレーキレバーに体重をかけない。
レバーやフレームが破損・変形して、転倒する恐れがあります。

前かがみの状態など、車いすの前方向へ体重をかけない。
車いすの後方が浮き上がり、前方に転倒する恐れがあります。

車いすの分解、フレームの構造を変更するような改造は行わない。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

タイヤ 、キャスタが摩耗した状態で使用しない。
タイヤ、キャスタが摩耗すると、駐車用、制動用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へお問い合わせください。

乗り降りの際および停止時、車いすから離れるときは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしない。
過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐れがあります。

走行中に駐車用ブレーキを使用しない。
転倒など事故につながる恐れがあります。

認知症など、自力では操作ができない使用者が利用する場合は、介助者を伴う。
車いすが予期しない方向に動きだして、転倒や転落など事故やけがにつながる恐れがあります。

各部を調節する場合は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行う。
車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認する。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

背折れジョイントが障害物に当たらないように注意する。
後方へ進行や旋回をするときに背折れジョイントが障害物に当たると、背折れジョイントのロックが外れて後方で姿勢をくずす恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意する。
けがをする恐れがあります。

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかける。
転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ず駐車用ブレーキをかけて、本体フレームを持つ。
本体フレーム以外の部分を持って持ち上げると、使用者の重みで部品が外れて、車いすの破損ならびに使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

必ず平坦な場所で、車いすの乗り降りを行う。

⚠ 注意

二人以上の乗車や、目的以外で使用しない。
この車いすは一人用です。

シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま、車いすの開閉操作を行わない。
手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。

フットサポートの下に足を入れない。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

使用者の乗車中、背折れジョイントの操作を行わない。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさんだり、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

走行中、身体を乗り出さない。
走行の安全を損ない危険です。

フットサポートを足で上げる場合は、素足で操作しない。
けがをする恐れがあります。

指定された耐荷重を守る。
最大体重（積載物も含む）は100kgです。体重制限を守って使用してください。

操作中に異常な音や振動が発生したら、ただちに使用を中止する。
事故やけがにつながる恐れがあります。

走行中、足がフットサポートから落ちないように注意する。
事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際は、アームサポート、フットサポートに身体や衣服を引っ掛けないように注意する。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

使用前に、駆動輪（主輪）、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジがゆるんでいないか点検する。
ネジ等がゆるんだ状態で使用すると、部品のがたつきや脱落などの原因となり、事故やけがにつながる恐れがあります。

背折れジョイント、フットサポートなど、車いすの可動部に指や身体をはさまないように注意する。

安全上のご注意

⚠ 注意

シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しない。
製品を傷める恐れがあります。

使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しない。
車いすの破損や故障の原因となります。

駆動輪(主輪)・キャスタを他のサイズや種類に変更しない。

車いすを暖房器具に近づけない。
タイヤの表面が溶けたり、破損する場合があります。また、フレームや各部品が熱で破損や変形する恐れがあります。
破損した場合はただちに使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。

シャワーや入浴には使用しない。
水分や湿気による錆びの発生や、故障の原因となります。

段差を超えるときは、車いすに衝撃を与えないよう、ゆっくりと操作する 。

伸縮延長レバーを操作する際は、レバーのすき間に指などを入れない。

タイヤとの接触による、床面の傷つきに注意する。
クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意して使用してください。

静電気やシート生地への毛羽付着に気を付ける。
フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

車いすを持ち運ぶ際や、自動車などへ載せる際および積み下ろす際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけて、駆動輪(主輪)が回転しない状態で行う。
車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。

走行上のご注意

車いすの走行について

⚠危険
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- 側溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには十分注意してください。

⚠警告
- 車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せずにまっすぐ通過してください。
- エスカレーター(車いす対応エスカレーターを除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。

2 駆動輪(主輪)を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

※無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる

2人以上で車いすを持ち上げてください。
使用者の上半身を支え、本体フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにしてください。

⚠警告
持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、手押しハンドル、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

使いかた

ブレーキのかけかた

駐車用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
※駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと、解除されます。

制動用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと、解除されます。

伸縮延長レバーについて

伸縮延長レバーを伸ばすと、軽い力でブレーキを操作することができます。
長さを変更する際は、伸縮延長レバーがカチッと音がしてロックされるまでしっかりと上へ引き上げてください。
元に戻す際は、伸縮延長レバーを手のひらなどを使って下に押し込んでください。

動画で見る使いかた

駐車用ブレーキのかけかた　伸縮延長レバーについて　制動用ブレーキのかけかた

使いかた

車いすの開きかた・たたみかた

開きかた

1. 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
2. 両側の手押しハンドルを上げます。
   ※背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
   ※このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。
3. 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。
4. 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。
5. 駆動輪（主輪）を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
   ※シートパイプを握らないでください。
   ※シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。
6. 背アウターシートと座アウターシートを取り付けます。

たたみかた

1. 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
2. 背アウターシートと座アウターシートを取り外します。
3. 両側の手押しハンドルを下げます。
4. 両側のフットサポートを上げます。
5. 座シートの前後を持ち上げて、左右のシートパイプを引き寄せます。
6. 左右のアームサポートを外側から内側に押して、座シートを折りたたみます。
   ※車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

乗りかた

1. 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
2. 両側のフットサポートを上げます。
   ※上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。
3. 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。
4. 両側のフットサポートを下ろして両足を乗せます。

降りかた

「乗りかた」と逆の手順で行ってください。

動画で見る使いかた

開きかた　たたみかた　乗りかた　降りかた

各部の調節のしかた

⚠警 告　各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

フットサポートの高さ調節

動画で見る使いかた

フットサポートの高さ調節

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

使用工具：5mm六角レンチ（締め付けトルク：1.5～2.0N·m）

1. 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
2. フットサポートを下ろした状態で、ボルトを外します。
3. 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。
4. 希望の高さの穴を決めたら、ボルトを差し込み、袋ナットと共に締め付けて固定します。

※反対側も同じ高さに調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1. 六角レンチを使ってボルトを反時計回りに回します。反対側から袋ナットが飛び出してきたら、袋ナットを指で押さえておきます。
2. ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトと袋ナットを取り外します。

⚠注 意　ボルトが袋ナット側に突き出ているときは、袋ナットを指で押さえているとけがをする恐れがあります。

取り付けるとき

1. ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
2. フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、ボルトを締めすぎないように注意してください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検･整備して、常に安全な状態で使用してください。
※修理･調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告 キャスタの旋回軸やキャスタ、駆動輪（主輪）、ブレーキ、各調節部分等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

駐車用ブレーキの作動確認

・駐車用ブレーキレバーを操作して、確実にブレーキがかかることを確認してください。

各調節部分が固定されていることの確認

・各調節部分が確実に固定されていることを確認してください。

消耗品、交換部品の確認

・それぞれの部品が交換時期を迎えたときは、お早めに部品を交換してください。
・新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。

⚠警告 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪（主輪）	・タイヤの表面に溝がなくなったとき。 ・タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスタ	・表面の摩耗が著しいとき。 ・しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。

品名	交換時期
シート	・ほつれ、切れ目が発生したとき。 ・ひどく汚れたとき。 ・面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	・ワイヤーにほつれ、錆びが発生したとき。

お手入れ・保管について

フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

・樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

⚠注意 ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

シートのお手入れ

・シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

タイヤのお手入れ

・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

⚠警告 タイヤなどのゴム部品や樹脂部品は、濡れたまま放置したり、ひび割れが見られる状態で使用を続けると、樹脂内部に水分が侵食して加水分解を起こして、部品の劣化が早まります。症状が見られたら、お早めに部品を交換してください。

保管･収納について

・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
・錆び、タイヤ、部品の劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

⚠警告 折りたたんだ車いすを持ち上げる際は、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

困った時には

本製品をご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に、以下の項目を確認してください。

症 状	確認点	対処のしかた
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ車輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側にあたる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	斜行する側の駐車用ブレーキがかかっている状態で走行していませんか。	駐車用ブレーキを解除してください。
	斜行する側の制動用ブレーキレバーを握ったまま走行していませんか。	制動用ブレーキレバーを放してください。
	キャスタの回転に左右差がありませんか。 キャスタ軸の回転がスムーズですか。	使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
	搭乗した状態でキャスタ、駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが確実にタイヤに当たっていますか。駐車用ブレーキががたついていませんか。	
	タイヤ押さえに変形や摩耗はありませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
車いすの各所から異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどが干渉していませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリーなどは、車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。 ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。 フレームに歪みが発生していませんか。	使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
車いすがたためない。	フットサポートを降ろしたままにしていませんか。	両側のフットサポートを上げてから、車いすをたたんでください。

アフターサービス・保証

アフターサービス

・万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
・保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保 証

・保証内容につきましては、同封の保証書をお読みください。
・保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

・本書で使用している画像・イラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。
・製品改良のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。
・本製品の処分につきましては、最寄りの自治体担当窓口までお問い合わせのうえ、自治体の指示に従って廃棄してください。

製造元

Wheel Chair MiKi

株式会社 ミ キ
〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

2610-G02-KRM